第1回 持続可能な世界分科会 議事録

日 時 2008年10月6日(月)15:00～17:00

出席者 7名(飯塚堯介、上野千鶴子、野口伸、福井弘道、真木太一、宮崎毅、山内皓平)

欠席者 4名(酒井啓子、山本雅、濱田政則、前田正史)

事務局 6名(渡辺、戸田、中島、井上、大西、加藤)

第1回委員会において、山内委員長、宮崎副委員長、上野幹事、福井幹事を選出し、本委員会の基本的なスケジュールを確認し、今後の進め方について議論を行った。その結果、まず先行した「水・食糧と持続可能な社会(宮崎委員長)」委員会の議論を参考に始めることとなり、次回にその委員会報告を聞き、今後の進め方についてさらに議論を進化することになった。今後の委員会のタイムフレームは以下のとおりとすることを確認した。

2008年10月 第1回

2008年11月 第2回 水・食糧課題別委員会報告+ブレスト

2008年12月 第3回

2009年1月 中間報告

2009年3月 第4回

2009年4月 第5回

2009年5月 第6回

2009年7月 第7回

2009年8月末 報告書のドラフトをまとめる

2009年10月 総会報告

2010年4月 総会承認

主な進め方についての議論は以下のとおりであった。

- ・ 工程表のイメージを描くために、ブレインストーミングをまずやったらどうか。
- ・ 課題別委員会の「水・食糧と持続可能な社会(宮崎委員長)」を参考コアとして議論したい。
- ・ 宮崎委員からあと1回委員会があるが、議論を本委員会に引き継ぐ形にしたい。
- ・ どのような課題を取り上げるべきかをまず議論しよう。
- ・ 委員は15名まで増やせるので、適宜補足していけばどうか。
- ・ 巨大な問題群に首をつっこむことになる。現在進行形で物事がすすみつつあるので、資料を網羅的に集めるか、個人の守備範囲の感性に持ち込むか。前は前者で日本総研にその作業を予算化して進めたが今回はどうすべきか。
- ・ これまでの議論を参考に展開したい。資料集を添付したい。
- ・ 持続可能性とは何かの定義からスタートしたらどうか。

- ・ タイムフレームは、10 から 20 年ぐらい。
- ・ 中短期のことを考えるには、長期のフレームが必要。
- ・ 具体的に宮崎委員会では何をやられたのか。
- ・ 発端は会長が提案（大垣先生が書いた）G8 関係で唐木先生が抜けて、宮崎が担当。（幹事は唐木、広瀬）やったことは、水・食糧に関する資料をすべて集めた（DVD がある）。認識の科学（こうあるべきだという認識のもと、これだけがいえること）と設計の科学（だからこうあらねばならないということ）。最後に絵（マップ）を書き、それがどこに向かっているのかを含めて書く予定。これを本委員会では生かすのか。
- ・ 水、食糧に限定せず、資源、エネルギーに加え社会的な文脈も含んだテーマを考える必要がある。
- ・ 水・食糧以外に、エネルギーや環境、森林、安全保障、適応制御、制度設計までも含めて、次回整理してカバーする問題の範囲を検討しよう。
- ・ 第 2 回目の会合 2.5 時間でどうか。
 - 水・食糧課題委員会報告（1h） 30 分報告
 - ブレスト（1.5h）＋（1.5h：上野先生が KJ 法とりまとめ）
 - 農学委員会（真木委員長）と食糧科学委員会も合同でやってはどうか（一部のみ）。
次回は前半合同
- ・ テーマ別委員会でも、広範に議論してとりまとめるようにと金沢会長から指示があった（山内）

次回、3 回目までの候補日について以下を確認

- 11 月 20 日 14-18 ○ 2 回目（14-15 は合同で行う）
- 12 月 5 日 15:30-17:30 ○ 3 回目 候補日
- ~~12 月 12 日 15:30-17:30 ○ 3 回目 候補日~~
- 12 月 19 日 15:30-17:30 3 回目候補日

以上